

第3回南関町立学校のあり方検討委員会議事録

日 時：R7.6.17（火）15：30～17：20

場 所：役場北館2階大会議室3

出席者：検討委員（21名） 2名欠席、教育長・教育委員会（5名）

1. 開会

2. 会長あいさつ

○会長

今日は、新年度を迎えましてですね。2か月半ほど経過したところでございます。学校のほうをですね。通常ベースで進んでるかと思えますけど。本検討委員会についてでございますけどですね、昨年度立ち上がりまして、昨年11月に第1回の会議そして本年2月に第2回の会議を経て、本日、第3回を迎えているところでございます。

この間、辞令交付がありましたように、構成委員の代表区長様をはじめ、校長先生や、PTA会長様と11名の交代があつて、新しく委員になられた皆様方、どうぞよろしくお願いします。

本年度の取組については、本日を含め3回の検討委員会、2回の先進地視察、ということで予定しております。

来年の3月には、町教育委員会の諮問についてですね、答申する計画で、本検討委員会は進んでおります。

そういうことで、本年度は、昨年度以上に内容の濃い、検討委員会になるかと思えますけど、皆様方、昨年度以上にですね、積極的御意見等をですね、賜ることができればなというふうに思っておりますので、どうぞよろしくお願いします。

○各委員自己紹介（自己紹介割愛）

○事務局

それでは、経過報告の前に、初めての委員の方々もいらっしゃいますので、資料については5ページ目を御覧ください。

昨年11月の第1回検討委員会において、教育委員会より南関町立学校のあり方検討委員会へ諮問がなされております。

内容については、1、豊かな心と確かな学力を身につけ、心身ともにたくましい子どもたちの将来像について。2、南関町立小学校の適正規模・適正配置について。3、南関町学校教育の特質を生かした小中連携した教育について。4、地域における小学校の役割について。5、これらに伴うさまざまな課題改善について。の5つの内容で諮問されております。

委員の皆様方には、それぞれご意見をいただき、今後の南関町の教育環境についての答申をまとめさせていただければと考えております。

それでは、経過報告をさせていただきます。

資料については6ページ目を御覧ください。この経過報告については、委員の皆様、資料を開示する際に、報告をさせていただいておりますが、改めて御説明を差し上げます。

令和6年11月13日に、第1回目の検討委員会を開催しております。議題としては、検討委員会の趣旨説明、運営方法、学校の現状、令和5年度に行ったアンケート調査の結果について、御説明をいたしました。質疑応答において、開催時間を夜との要望、子どもの意見を取り入れてほしい、意見を出しやすいグループ設定をという意見がございました。

次に、第2回の検討委員会を令和7年2月19日に開催しております。議題としては、これから求められる子どもの資質・能力について。町教育委員会では、まず、目指す資質・能力の学校から必要性を説き、各学校の実情や願いに基づいて育成を目指す資質・能力を設定してもらっております。

各学校が目指す資質・能力の設定は、随時、児童生徒の実態や社会の変化に合わせて見直しをしながら行っております。また、学力向上研究協議会で校内研究の主軸を資質・能力の回復に向けた授業改革するよう呼びかけてまいりました。

国が推し進めております取り組みについても、南関町でも取り組んでおり、現在、小規模校のメリットを最大化する取り組みと、デメリットを最小化する取り組みを進めていくという内容を御説明しているところでございます。

次に、学校の適正規模・適正配置では、学校の適正規模・適正配置と学校施設の維持管理の耐用年数や維持管理費についての説明を前大会で行っております。その後、各部会に分かれて、それぞれのテーマで御意見をいただいております。第1部会では豊かな心と確かな学力を身につけ、心身ともにたくましい子どもたちの将来についての内容で、それぞれのお立場から御意見をいただいたところです。

主な意見としては、乳幼児期からのつながり、小学校から中学校へのつながりを大切にしてほしい。ギャップに苦しむ子どもがいる限り、心の面での安心や安定、楽しいと思える学校の学校をつくってほしい。南関町は人権教育を大切にしている、それを生かしてほしい。不登校やいじめに柔軟に対応できる学校づくりを、ICTの活用など、全国的な流れに乗るだけではなく、南関でしかできないことを学び、経験させたい。特色ある学校づくりを、などの意見が出されております。

次に、第2部会、南関町立小学校の適正規模・適正配置について、町の学校教育の特質を生かした小中連携した教育についての内容で御意見をいただいております。

主な意見としては、今後の児童数の減少を踏まえると、統合もやむを得ないのではないか。統合するとしたら、場所や通学の手段はどうするのか。校区ごとの特色がある取り組み、例えば校歌、どんどや、餅つきなどの地域との触れ合い行事などをどのように整備したり、残したりしていくのかなどの御意見がございました。

次に、第3部会では、地域における小学校の役割について、この内容で御意見をいただきました。

主な御意見としては、子どもたちと交流するのは楽しい、面白い。地域に学校は何をしてほしいか伝えてほしい。統合されれば足が遠のく。地域から学校がなくなると寂しい。

学校と地域がウィンウィン（w i n - w i n）の関係でありたいなどの意見が出されております。

以上が、令和6年度第1回、第2回の検討委員会の経過報告でございます。

○会長

第1回の状況、第2回部会で検討した中身の状況ということで、説明させていただきました。お尋ね等ございましたらどうぞ御意見特にございませんか。

⇒質問なし

ないようでしたらですね、また後でも、質問できるかと思いますので、2番目の子どもたちの将来像についてということで、よろしくよろしくお願いします。

○事務局より

校長先生方には、4月にお話しした内容と重なっておりますので、それを踏まえてお聞きいただければと思います。

先ほどもありましたけれども、第2回までに検討いただいた御意見として、第1部会では、このような内容と説明があったと思います。小中のギャップをなくしてほしいとか、心の案件とか、ICT、いろんなことが出されていましたが、いずれも非常に有益な御意見で大事なことだと考えております。

ここで注目してほしいのは、これから説明しますけれども、特色ある教育を含めて、これらのことは教育委員会、そして大きく構えますと、国や県も同様の方向を目指しているものであって、ここにある貴重な御意見であると同時に、我々がまさに目指していくことなんですよという部分、そういうことを、それを詳しくおっしゃったということは、目指しているけど、まだ実現半ばであるということで、しっかり頑張れというふうに肩を叩かれたと感えているところでございます。

今から、その内容を説明いたします。まず、国が全体的にどんな教育を目指しているかというのは、この図の右上のほうにあります、この、今、赤が出てきたワードをご覧ください。何回も説明があったと思いますが、これは未来を生き抜くための汎用的な資質・能力を子どもたちに培っていく。子どもたちが獲得していくことを目指しているんです。なぜなら、社会は急激に変化していて、既存の知識や何かでは、子どもたちは対応できない。生き抜く力を身につけることが大事である。同時に教育委員会としてはお願いしているし、国としても、こういう時間が必要だということを言っております。

それを踏まえて、町のほうでも基本方針の中に、新しい学校のあり方、基本的方向性を述べておりまして、これは資料に書いてありますので、そちらを御覧いただければと思います。さらに重点として、この四つのところです。ICTの活用や小規模校のメリットを生かしたうんぬんという、先ほど説明があったようなことも、大事なこととして取り組んでおります。

不登校対策も右下のほうにあると思いますが、実際に中学校で、ひだまり教室として活動している部分もありまして、取り組んでおります。しかし、御指摘もあったということは、繰り返しになりますが、まだまだ頑張らなくてはならないというふうに考えているところであ

ります。

今年、教育長が、ここの青と赤の部分をご覧いただくと分かるかと思いますが、町としてもこういう力が資質・能力として大事だよねということを文章化されました。これに先立ちまして、各学校には、すでにここ数年にわたって、目指す資質をそれぞれ大事にするということを三つから四つほど掲げていただいて、その実現に向けて、学力向上研究協議会などで、校内研究の推進を軸として、その実現に向かってもらうということを後押ししているところでもあります。

それを詳しく言いますと、目標は新しい学校教育を創造することですけれども、具体的に言うと、子どもの自己選択決定、自己調整力を発揮することで、子どもが主体になって自分たちが目指す資質・能力を獲得していく方向での授業改革をやっていきましょうということをメインにしております。それに基づいて、校内研究はもとより、指定校が1年目、2年目ありますので、各指定校で特に鋭意努力していただいているところでもあります。

お願いしていることの中心は、1番にあります。授業改革、学習改革でございますが、ここにも掲げておりますとおり、なんととっても、子どもたちが自分でやる気になって、自分の学びを変えていく。そして、その結果として新しい知見でありますとか、技術、技能、そして考え方を深めていくということをやってほしいということで、これらを重視した教育改革をやってくださいというのがメインです。

これから先、これらを実現する一つの方法として、国のほうも新しい学習指導要領を目指して、今、協議を進めているところなんです、その中で出てきたことで、今年中にでもできれば町の各学校で取り組んでほしいという内容がありましたので、それを4月には校長先生に説明しておりますが、この際に皆様方にも知っていただきたいと思ひましてお話をします。

今、非常に家庭の環境などのために、学力が非常に厳しい子どもたちと、特異な才能の一種の天才的な子どもたちも含まれたり、あるいは学習行動面でいろいろ問題がある、日本語が理解できない子ども、いろんな子どもたちがいます。不登校の子どもたちがいます。

いろんな子どもたちが、35人の学級にすると、この図があるような割合で、多数含まれている。これは一つの学習課程、教育課程では、到底対応できないという現状があるんじゃないかということで、実際、各学校も苦勞されておりますので、それに対応して、一人一人の価値を高めるような教育課程を考えていこうという会合がありました。

その中で出てきたのが、年間授業時数というものがあります。国語は年間何時間というのがあるんですけれども、それは法律で変えられないんですけれども、大体皆様方、小学校時代、中学校時代、1時間の授業時間は45分だったり、50分だったりしたでしょう。これは決まっている。私たちもつい最近まで守っていたんですが、文科省の説明によりますと、それはあくまで基準であって、説明のための計算上の便宜であって、変えることは可能なんだということが言われています。

そして、年間の教育課程をつくるときに、大体35週で計算するんですけれども、その35週の、これは35週以上を取っているねということで、40週でもいいんだよということを、このときの文科省は説明しています。

つまり、これは時間の見直しとか、年間授業時数を見直すことによって、週30コマあるのを28コマとかにして、余白の時間を生み出すことによって、さらに子どもたちが自分で考えて行動する勉強の場を確保したり、先生たちが自主的に研修する場を確保することができますよということを示しています。そうすることを実行していったときに、より子どもたちが自分で考えて、自分のアイデンティティを高めるような学習が成立していくんじゃないか。先生たちも、自分事としての研修を進めることが可能になって、より教育の質が高まるのではないかということが言われているわけです。

この具体的な例として、これは研究開発学校として、東京の目黒区が中心になってやっていることが紹介されましたので、ここでまた紹介します。これが、さっきの年間授業時数というのは、大体計算すると、小学校4年生以上だと年間1,015コマになります。これは45分を基準として考えているんですが、それを40分にして計算すると、40分の1,015コマをやっていきますと、 $5分 \times 1,015コマ = 5,075分$ で割って40分で割りますと、127コマ分の時間が創出される。その時間を下の円グラフにありますように、大部分は子どもを中心とした、特色ある教育活動に、一部は職員の自主的な研修に使うことによって、より教育の質が高まるんじゃないかということを、ここで言っております。

大事なのは、時間を変えるということは手段であって、目的は教育の質を高めるということです。40分にしましたが、通常の学習課程を行う、教育課程は行うわけで、その質を高めることも左側ですから、もちろんですけども、生み出した時間に子どもたちの特色ある活動や研修をやって、より教育を充実させようというのが基本的な考え方です。ここはちょっと飛ばして、今ある教育活動をより充実させますということをここでは述べてあります。

そういうことをやったことによって、左側を見てください。授業改善を促進しました。それから、先生たちの対応マネジメントも向上しました。右側で、中学校はどこかということ、中学校は45分にしたんですけど、こちらも順調に改善が進んでいますという報告がなされました。

具体的にどういうことかということ、生み出した時間で、より活発に活動してもらっています。薄い水色がかかった部分が、ここで、2. 個人探究と書いてあるところですが、これが生み出した時間に子どもたちが中心になって活動する時間です。それから、右下のほうに導入の時間というのがありますが、こういうふうにして演習が進むことができました。左側のほうは、普通の教育課程の中で行われた改革です。

どんなふうに行ったかということ、黄色い部分が生み出された時間を含めた余白の時間ということになりますが、そのうちの裁量で課外している時間、これは子どもが中心に活動する時間。ほかは教員が頑張って演習をする時間ということになります。

ほかにもたくさん例があるんですが、今日はここだけを説明します。こういうふうにして生み出した時間によって、子どもたち中心の、つまり子どもたちが自分で判断して行動する時間というのが生み出されて、より充実した教育活動が行われているという報告がなされています。

写真を見てください。子どもたちがエレキギターを抱えています。これはギターで音楽を

奏でたいという人たちが、自分でそれを選択して決めて、計画を立てて学習しているということを表しています。左上であれば、授業、学習の内容を自分で復習している子どもです。左下だと、常に関心のあることに対して、実験でしょうね、これやっている。これらを子どもたちが自分で選択、決定して、学び、時間数、計画を立てて、調整して行っている。これによって自己調整力とか、自己決定力とか、主体的な学びというのが進行していることが示されている。

これからの学校は、すでに研究開発学校で、たくさんの取り組みがなされておりまして、繰り返しますが、現行の学習指導要領の中で、町の先生方が取り組まれることも可能です。進んでいる学校として、福岡県にもありますので、視察の候補の一つ上がっております。

それから、質の高い探求的な学びを大事にしていこうと。ここでいう部分では、今ある総合的な学習よりも、より充実するという方向での話し合いもなされています。こうすることによって、子どもたちが自分で考えて行動するということを強く意識して、その力を伸ばしていこうということを我々も目指しているので、各学校にも紹介をしているところです。

子どもたちの力、自己実現に向かう方向性をはっきりさせるために、いろんな話し合いも行われておりますが、町の中でも今、時間数の見直しを中心とした改革を進めてはいかがでしょうか、ということをお各学校にはお願いをしているところで、我々としても、よりたくさんの情報を仕入れて、文科省から直接人を呼ぶことも含めて、いろんな支援をしていきたいと考えているところです。

⇒質問なし

○事務局より

適正規模・適正配置についてということで書いておりますけれども、まず上の段の表が、令和7年5月1日現在の南関町の児童数の一覧になっております。

各小学校の学級数は、特別支援学級を除くと、基本的には1学年1クラスというのが今の現状です。

第二小学校につきましては、2年生と3年生、4年生と5年生が複式学級になっておりますので、学級数としては、今4クラスというような形になっております。

6月5日時点の今後入学する予定の児童数です。第一小学校で6年後には、65人の減少があつて61人になる。第三小学校についても、30人の減少があつて71人。第四小学校で17人の減少で65人という形で、全体として116人減少します。これは時点の数値になりますので、若干の増減はあるかと思えます。

令和13年入学予定者については、昨年は24名の出生になっておりますので、このままいくと、町内の1学年が24名という現状になるというものを、まず説明させていただきたいと思えます。

令和7年度の出生数についてですが、4月が1人、5月が2人で、年間の出生見込みとしては、30名程度というような現状です。

小中学校の建築の年数については、主なものについては築40年以上経過しているような状態で、いろんな修繕とかが必要になってきているということで、今後どうするのかという

のを含めて、検討していく必要がある状態です。

施設の関連費については、過去5年間の修繕費、委託料関係の一覧を載せております。小学校だけで見てみますと、大体年間に950万円ほどが修繕費、約3,000万円の電気代だったり、委託料だったりということで、合計すると平均で一年当たり6,100万円ほどの経費が施設の維持としてかかっています。

既存校舎改修にかかる国の補助事業については、その対象となるのは、トイレの洋式化、空調の設置、バリアフリー化、耐震力不足と改修後30年以上使用しますよというものについては、3分の1の補助がございます。しかし、これ以外の老朽化の改修については、国からの補助がないという現状で、ほぼ維持していくのであれば、町の持ち出しが必要になるという現状です。

続きまして、「南関町の学校のあり方に関するアンケート調査」を令和5年度に実施しました。昨年度までいらっしゃった委員は、一度御覧いただいているかと思いますが、改めて、初めての方もいらっしゃいますので、簡単に説明をしたいと思います。

「あなたが通っている学校の児童数をどう思いますか」というのを子どもたちへの質問については、「どちらかという増やしたほうがいい」、「ちょうどよい」というのが一番多いです。あとは「もっと多いほうがいい」というような形になっております。

子どもたちの意見で多かったのは、「たくさんのクラスメートがほしいから」「いろんなグループで活動したいから」ということで、子どもたち自体がもうちょっと友達が多いほうがいいなというのが、ここに現れているかと思います。

「もっと少ないほうがいいですよ」と回答した子どもたちの意見として、「少人数のクラスメートでいたいから」とか、「もっと自分の好きなことや、好きな自分の好きな役割をしたいから」という意見が多く上がっておりますけれども、注目すべき点として、今、南関町で一番児童数が少ない二小を見ていただきますと、「少ないほうがいい」と回答している子がいないんですよ。多いほうがいい、少ないことによって、ちょっと多いほうがいいですよというのが、この結果として出ております。

学校の先生のアンケート、幼稚園・保育園の保護者のアンケートというのがありますけれども、後ほど御覧いただければと思います。

統合に関する意見については、20歳未満という児童生徒に関しては46.2%、いくら少人数であっても、現在のまま存続させてほしい。53.8%が、ある程度の適正人数を確保するためには、統廃合は仕方がないという意見が出ています。

全体としては約63%が統合は仕方がない、18.9%がこのままで残してほしい。小学校を存続させるか統合するか、今判断できないというのは、14.2%となっています。

子ども、幼稚園・保育園の保護者、地域の方と先生にアンケートを取った結果が、このような形に今なっているということを、まず御確認いただければと思います。

続きまして、参考までの資料になりますけど、文部科学省が作成している資料の一部を抜粋しております。

あくまで文部科学省での基準ですけれども、学校規模の標準としては、小中学校ともに12学級以上、18学級以下ということで、クラス替えができるぐらいの規模が適正な基準で

すよというのを、文部科学省としては示しているというものになります。

今、全国的にも出生者数が60万人台になって、今後、数年間で学校がなくなっていくのが進んでいくというのは、国全体として危惧しているところです。なので、そういった場合の対応策というが、国のほうで一応示されているということで、現状の報告をさせていただきたいと思います。

○会長

資料2と資料3について、今後の方向性に参考になる部分たくさん御説明がありました。お尋ね等ございましたらよろしくお願いいたします。

特にございませんでしょうか。

⇒質問なし

そうしましたら、一つ、先の部分というか、今回ですね、委員の皆さんにお集まり頂いておりますけれども、学校の在り方についても、今年度中に一応方針を出すということになっておりますので、今日参加頂いてる皆さんに、学校の概要にするとか存続していくのかについて、皆さんから一人一人意見を頂けたらありがたいなと思っております。

○会長

先ほども説明がありましたけどですね、第1回会議、第2回会議のアンケート結果が紹介されたんですけど、中では、統廃合がやむを得ないんじゃないかなだろうか。という意見が大多数出たように私は思っております。そういう中でですね、令和3年4年の頃はですね町の出生数は、39名あたり、これも極端にこのあたりも影響があったかもしれませんが、それまでは60人ぐらいだったのが令和3年4年で、39名、40人切ってしまったんですね。これは大変なことだということで、教育委員会とか、議会等に問題提起をした流れがあって、今年度のスタートの状況が、2小のほうは、複式学級が、二つ、以前は複式学級あったんですけど、それが一つでした。それが二つ。更には、第1小学校、あるいは第3小学校についても、数年後は、複式学級が出てくる。そういう状況の中であって、さあ、学校の在り方としてはどうなのか。そこが1番この会議の中の本題になってくると思いますのでですね。ぜひ、お1人お2人の御意見を伺うことができればな、そういう思いでございます。

○委員①

私が前の教育長でしたので、実はその頃から町の議会で、今後の学校の希望については、議員さんほうから質問を受けておりました。そのときの様子が、第4小学校さっき言いましたように、第4小学校がもう複式学級が一つの隣り合わせの枠にですね一つの複式学級があったわけです。その後、地域の努力の成果ですかね。御覧のとおり、この7ページの表にありますように4小には、複式の存在が集まっているというところが2小のほうは、その頃から心配しながら、まだ2小には複式がなかった。そのときに教育長として答弁せないかん。

今後の学校教育どう考えているかという、一つの複式学級、これが2校にまたがり、そ

して複式が二つずつもできれば、もうそのときは、町の情勢からして、4校分、教育予算獲得そのものが厳しくなっているというようなことで、そういう状況がもし来れば、そのときはしっかりと考えていかなければならないのではないかという答弁をしたところでした。

そういうことで、現状は2小だけが二つ。もう既にその兆候あらわれているわけですね。現実的なものになっています。ですから、多くの皆さんがやむを得ないというふうに、答弁されている、その後、事実は十分分かります。

それと、逆にですね今度は、保護者のアンケートの中に、2小や4小についてはある程度厳しい受け止めもされておりましたが、やむを得ないというところにあってはですね。島の学校なんかを見ると、定数に至らなくても、ちゃんと学校教育は、成り立っていくと、成り立たせるというような国の方針から、急がなくてもいいんじゃないかというような声も何人かからの声としてアンケート結果に出ておりました。それもそうだなと考えてましたが、今日、事務局からの説明で、1小が13年入学、5人しかおらん。これはちょっと危機的状況ですよ。こうなってしまうと、やっぱり学校としての考え方に非常にいつまでも単独でやると、いうようなのは島の学校みたいな感じになっていくんじゃないかということを重ねて今思ったところでした。そういう意味で私のほうも、かつてもこのような答弁をしたように、厳しい状況が今後必ずやってくることがこの数字にあらわれております。統合それから、町としての財政上の考え方から、これが一つの決断の白黒ではないかというメーターからの考察をさせていただきました。

○会長

一応統合というところで来年出す方向性としては理解したところでございます。

○委員②

結論を言いますと私もやっぱりすごく統合はしょうがないだろうな。

二つちょっと考えてるんですけど、まず一つは、子どもの教育、というところですね。

私も学校で仕事をしていたという経験がありますので、2の生きる力。先ほども出ておりましたけれども、生き抜く力と先ほど言われましたけど、それを付けていくときには学力だけじゃなくって、社会性っていうのがもう一つ両輪だっていうのはもう共有されてる方は、皆さん、分かっていることだと。社会性というところに今回南関町で、教育長さんが先ほど紹介されました教育突破力の中に絆を形成する力とかいうのもありましたけれど、絆を形成する、つまりやっぱり人と関わっていくことで、絆という1人できるもんじゃないから。

そう考えたときに子どもたちに社会性っていうのをを見つけるのには、やはりそれなりの人数がいないと、世の中にでていけて言われたときに、そこで対応できる力っていうのはなかなかできにくいんじゃないかなというふうには思うんです。

先ほどの文科省の中にも、適正な学級数っていうのは、クラス替えができるってクラス替えっていう言葉が出てましたけど、やはり子どもたちは、クラス替えという新しい環境を2年ごとなのか毎年なのか、そういうところを経験する中で、新しい社会がそこで形成されている。そういうのをみんなでつくり上げていくという、そういった活動っていうのが目に見

えないような形で社会性っていうのを見つけていく大きな、機会になるんじゃないかなと思います。子どもたちのアンケートの中では、子どもだけが今のままがいいという割合が多かった。これはもう当然の話であって、子どもたちはそういう環境の学校に上がってきて、そういう環境の中で、今まで勉強してきたり、生活してきたわけなので、今の小学校の学校教育がきちんとした教育をしてあれば、子どもたちは満足した状況で学校生活を送っているわけなので、そこに対してそれだから、もし低いということであるならば、逆に今の学校は十分に子どもたちにその力をつけてるんだろかということになってしまうので、そういうことから考えて子どもたちの声が高いのはもう、学校がきちんと指導されているっていう結果だろうし、その中で育てる子どもたちの考え方としては当然、割合は多いだろうと。

でも、20代30代40代の保護者の世帯世代が、統合の割合が多かったのが、すごく目が行きました。ということは、子育てをされている親の目から見ても、やはり、休み時間にも、例えば運動場に出てサッカーしたり、みんなで遊ぶようなことをしようと思っても、それすらできないような人数じゃないほうが、子どもたちはもうちょっとたくさんの中で、いろんな経験をしてほしいという、そういった希望がその中にはあらわれてるんじゃないかなというふうに、思ったところですね。ですから、子どもの社会性という点からいって、まずは、やはり適正なクラス替えを経験させてあげたいといっても、その状況を打破するためには、南関町にみんなが来てもらえるような学校であってほしいなというところ。

そうしたときに、南関町に住んで南関町の学校にやりたいなあと思われるような規模というのは、果たして、複式があるような学校なんだろうか、それともプラス外部できるような学校なんだろうかというのをちょっと考えたときに、やはり、クラス替えもできる規模の学校のほうが子どもたち、転校してきて、通わせたいという学校としての活動が充実しているほうなんじゃないのかなあというふうに思うわけです、近いほうがいいというのは、がもし小規模でもっていうときには思いますが、それに対しては多分、スクールバスとか先ほどからも出てますけれども、そういうふうなことも含めて、対応というのはされて遠くでも困らないような対策はなされるだろうと思いますので、そういうことで考えたら、今後の考えでも、やはり、ある程度規模のある学校にしたほうがいい。

○委員③

もうこれだけの中に入ってきてますので、難しい。統廃合に向けて、進んでいったら1番、いいんじゃないかと思います。

○委員④

これから子どもの数を、見るとですね、やっぱり統合せんと、やっていけんのじゃなからうかと。近隣もやっていますね。和水町にしたり玉名市にしたり。それを子どもたちをどういうふうに送迎するか。これが一番問題だと思います、送迎が。どっちにしたって、ここ何年かのうちに統合するのは当然であろうとは思いますが。

○委員⑤

あとは用地と子育てをしやすい地域ですね、全国的に見てもいろんな整備が南関町もですね。

○会長

ありがとうございます方向性を統合というところでですね、町の施策といいますか、まちづくりっていいですか、そういう部分でも、更に工夫していくっていうか、そういう視点がほしいという、受け止めさせていただきたいと思います。

○委員⑥

入学者にちょっと衝撃を受けたんですけれども、何か統合するような感じの方向はあるんですけれども、統合の仕方っていうかですね、例えば四つの小学校をいきなり1校にするのか、全部2校ずつしていくのか。例えば、統合するに当たって、メリットもあると思うんですデメリットはもちろん出てくると思うんですよ。デメリットとしてはですねやっぱりどうしても、運動会とかの行事とかあって、それと地域との分断が進んでいくんじゃないかとかいうそれとあとはですね、いろいろ例えばスクールバスを導入して、例えば小学生の対応をしてくるんじゃないかとかですね、地域との交流が減っているんじゃないかというデメリットはどうしてもあると思うんですよね。メインとしてはやっぱり社会性が生まれるほうの数を一緒に集めるというのはすごく大きなメリットだとは思いますが。

そういうデメリットとメリットをもうちょっと見つめて、皆さん、例えば町民全体でアンケートをとったりしてですね、皆さんが納得する形でいけたらなと考ます。

○会長

いろんな形からですね、課題等を出していただきました。

今検討委員会の中での協議っていうところで、本年度答申を出す、そういう必要性から、ぜひいろんな課題と思われる部分もやっぱり出して、それをどう改善していくか、その辺りも大事なことでするのでですね、今みたいな意見も大事かと思います。

一つ統合の仕方っていう部分で、4を2、4を1かという流れもありましたけど、これは私は在職時代にですね、議会の一般質問の中でも、まず、2校にして、1校というそういうお尋ねがございましたけど、それはもう2にしたら、またそれを1つにする、そういう課題も出てくるので、もう4から1ということですね。その辺は町長のほうもそういうふうな形で答弁しておられますので、その方法4を1にやっていく。そういうところで進めざるを得ないのかなと思っております。なかなかそう町民の合意っていいですかですね。とてもやっぱり難しい部分だと思うんですよ。その辺りもですね、私もいろんな働きかけをしたところなんですけど。こういう会の中に、議会の代表の方あたりが入っておられると、より進めやすいのかなという思いもあって、何回もお誘いはしたんですけど、なかなかこちらのほうでやっていくということは難しいっていう、ところのお話を頂いておりますのでですね。ここはそういう合意形成はやっぱりある程度のところで、方向性を探っていかないと難しいな

のかな、そんな思いをしたところでございます。

○委員⑦

町としてはどういうふうな方向性、町としての方向性ですか。

○事務局

この方針についてはこの検討委員会で、方向性、どういったほうがいいのかという御意見を頂く。それを取りまとめた上で、最終的な決定については、教育委員会の中で決定するとなりますので、御意見を様々頂いて、課題も含めたところで、こういうほうがいいだろうというような答申も持っていきたい。

○会長

よろしいですか。最終的な決定ではないということですね。分かりました。

○委員⑦

それを踏まえて言いますけど何で先に新校舎をどこどこに建てようかという話が出てるんですか。それが一番謎なんです。役場のほうから新校舎をどこに建てるかっていう、本当にどこに建てるかっていう話が結構出てるんですよ、どなたか分かりませんが、前会長さんからも聞きますし、

○教育長

教育委員会でも話はしていません。議会での質問もそういうのはあっておりませんし、町長や私もそういう答弁等はしておりませんので、ここの答申を受けた上で、教育委員会と町で方向性を決めて決定して、実際の動き出しをするということですので、新校舎ありきで話をするのであればここの審議、在り方検討委員会の意味はありませんので、

○会長

はい。そのあたりについて御理解をよろしくお願いいたします。

○委員⑧

賛成かな。学校で、少ないですが楽しくやっている。今後増えていく見込みがあるっていうのがあればいいんですが。もちろん全員が賛成は難しいと思います。

○委員⑨

自分の子どもにはもっと大きい、多くの人とですね、触れ合っているいろんな経験をしてもらいたいと思いますので、今までずっと携わっているいろんな経験をして、そして自分の生きる力とかがあっていう形もできてる。何か地元から小学校がなくなるのかなあって思うところもあります。それに、今までの歴史ばかり見ていっても、将来のことを思うならば、やむなしな

のかなと思うところもある。

私は今年から入りましたけど、これまでの検討委員会の中ではもう統合やむなしというような論調でずっと昨年度から来ているんでしょうか。説明を今日、ずっと聞いてる中で、説明がそういう方向のお話がずっときてるようなところだったので、これは本当に私の初めてだったんです。

正直、前会長からどういう話があつてゐるかっていうことも聞かないままこの場に私来ておりますので、分からないのでお聞きしてるんですけども、そういう方向で今話が進んでるんですけど、説明がそういうふうな趣旨の説明がずっと入ってきてるようなことがありますし、さっき委員⑦がおっしゃったように、そういう新校舎の話が出てるっていうのはもう前年度の段階でそういう統合仕方ないよねっていうような雰囲気がつずっと醸成されてきてるからそういう話がちまたで出て、この場でないにしてもそういう話が各保護者の中で出てきたりとかするのが、もし新校舎建てるんだったら、町の中心中学校のあたりが1番適当だよなとかって言って新校舎の位置が出たりとか、いやいや、農集センターのところは真ん中でしょうかなっていうところもある。

○会長

最初にお話ししましたとおりですね。現状維持か統廃合か。そこからスタートしたところでございます。あくまでもこういう現状にあるから、町としてはこういう取組をして教育委員会としてはこういう取組をしているというところで、どっちという方向性は全然ありませんでした。そういうところで、いろいろ調べていく段階でですね、後からこれを話そうと思ったんですけど、財政的な部分も若干新しいことが出てきておりまして、例えば国あたりから、先ほど、2分の1の補助があるっていうことで、新しい学校といいますか、統廃合する学校、条件があるんですよ。現状の学校から統廃合したら学校数が減る。4が1になる、4が2でもそうなんですけど。そこに2分の1の補助を出しますよ。結局学校数は変わらないところだったら、国は財政的な財政的な補助しない。そういうところを見ていくと、やっぱり町の財政的な部分も考えながら、取組の方向を見ていくと自分の思いとしては、だんだんこれはもう、学校数を減らす方向で、統廃合というところでやっていかないと実現は不可能かなと、そういう気持ちになってきた部分も事実でございます。

ですから、そういうところをですね、よく理解していただくというところで、直接的に昨年、関わってました、私のほうがですね、会長になったほうが進みやすいんじゃないかなというところで引受けたところでございます。正直言って、最初の問題提起、このままでいいのかっていうところでスタートしたところは間違いございませんので、この会もそういうところでスタートをさせていただいたところでございます。

○委員⑩

結論から言うと私も、統合はやむなしかな。とても元気で活気があったことを思うと、南関に戻ってくる前の南小国町に9年ました。もう統合されてありません。跡地には公民館が建っていますが、地域から子どもの声がなくなった寂しい状況もう目の当たりにしてきて

います。当時30人前後児童30人完全複式学級の小さい学校がとっても居心地がよくてですね。大きい学校にも負けない。活気がありました。地域のつながりも強く。運動会の種目も33ありまして、子どもの種目が14で、地域の種目が19、という打ち上げ盛り上がっておりました。そういうのもなくなってしまって、本当に川の流れが地域の中に聞こえるぐらい、そういう寂しさをですね。感じておりましたので、現状でいけるところまでという気持ちがあります。それから3月まで玉名市の岱明町の鍋小学校におきまして、玉名市の方針上、令和13年度までに、統合されることになっています。学校が統合された後の地域はどうなるんですかということもとても心配されていましたが、地域の在り方をどう考えていますかという質問がですね、学校運営協議会の中に、市役所から来られて説明をしていただいておりますけれども、それは、ずっとこの後も、学校統合後の地域におられる方、生活される方の心配事として、ですから、地域の統合の在り方というものを考えていかないといけない。やはり、30人というような出生数では、どうかと。ぎりぎりまでは、現状、どこまでがぎりぎりなんかそれだいう事です。

○委員⑪

先週ですね、学校運営協議会で統廃合については、委員からも意見が出ました。委員さんの中では、子どもの数が少なくなってる。教育活動ができるのか。心配とやっぱおっしゃったように、地域から学校がなくなることについて心配というか寂しさと。保護者の方ははっきりとして意見を言ってるわけじゃありませんが、統合してほしいと思っている方が多いのではないかと思います。複式学級には複式学級の良さがありますので、子どもたちが主体的に学ぶとか、そういうふうなものを今しっかり2小では育てているので、子どもたちが主体的に学ぶというものについては、2小でしっかり育てた部分をもしも統合したときには、全学校に広げられるような、そういうスキルをつけられるかなあというふうに思っています。以上です。

○委員⑫

今までのデータを見ても、統合やむなしと考えます。ただ、小さい学校だからとか、今の現状で力がつけられないわけではない。ただ、令和13年度、また今年度の出生数とか、ああいう推移を見ますと、委員としては、統合やむなしと考えます。統合するときですが、やはりいろんな南関町という地域性それぞれの歴史を考えていきますけれども、それを、新しい学校が一定に負うのはなかなか困難です。だからそのところをゼロベースで新しい学校がスタートできるように、しないと、新しい学校が抱え過ぎてしまう。という懸念はしておりますので、その辺りをうまく整理しながら、新しい学校なんだということで統合していくという道筋をつけることが必要になってくると思います。

○委員⑬

4月から、赴任してきて100人を切った学校が三校目になります。現状のままいけるのであるならば、このままいきたいなと。正直な気持ちですが、入学予定者数を見ますと町と

して随分減っていきますので、統合するというのも一つの考え方かなと思います。

○委員⑭

統合していただいたほうが中学校に入ってはいいいのかな。小学校によって差があります。どうしても大きい学校、人数が多い学校の生徒が主流といいますか、小さい学校子どもたちが出てこれないということも言えることなんですけども、個人差が、地域の方の思いも、もう無視はできないなという。町として考えていただきたい。社会性のためにやむなし。

○委員⑮

幼稚園についても、減少しています。複式学級もあります。四小に知的学級がないため二小に通った例もある。統合したら、対応できるのではないかな。

○委員⑯

多分この中で唯一統合を経験しているんじゃないかなと思います。14年ぐらいに同じような問題とか、同じような声が上がってきた。保育所も小学校も変わらないなと思ってます。子どもが今の中2ぐらいと比べて120名子どもの数が減っております。最近小学校に上がるときに保護者が1234（小学校名）を選ばないんですよ。もう少ないから、例えば玉名に荒尾で益城に行きますっていう方々がやっぱり増えてるのも事実。ですから、そこ辺りを考えると、早くしていかないと穴が開いているんじゃないのかな。まだどんどん減ってるんですね。ですから、もっと厳しい数字が、年数がたてばたつほど押し寄せてくるんだと。ていうのが現実ですね、どうするかしないは別としてっていうのが今の現実なんです。私個人的意見からすれば、統合かなと思います。

○委員⑰

統合したほうがいいのではないかなと思う。ただ、統合ありきで話を進めると問題が生じると思う。小規模でもうまくいっているところも見てみたい

○委員⑱

統合かなと思う。ただ、どうにかならないかなと思う。スクールバスなんか、活用して四つの学校がいつも交流できるような感じに今からでもいいと思うんですね。運動会を一緒に、自分たちの学校、四つの学校が、一つの行事を行えばいいと。地域としてはとてもやっぱり何か寂しいっていうか、ますますなんか減っていくんじゃないかな。それよりも、南関町がもっと魅力がある、何か集まるようなことを。

○委員⑲

私の意見としては、統合のほうで進めていくしかないかなあとは思いますが。ちょっと個人的にはやっぱり地元で育って、小学校がなくなると寂しいなっていう気持ちはあるんですけど。子どもたちが卒園後、一緒に遊んでいた子どもたちと同じ学校に行けないっていうのは

子どもたちも寂しいのかなあという思いがある。それが統合になることによって、子どもたちもその同じ学校で、また、新しいお友達も含めて、勉強だったり、学習をできる、ここになる、なるなら統合のほうがいいのかなあという思いはありますし、ただ、なくなるっていうところもある。

そこそれぞれの学校の特色、地域の方とのコミュニティーだったりとかが、なくなることによって、それも潰されてしまうとなる寂しいし、今後出生率も少なくなってくる。少ないんですけど、転入だったり、まちづくりだったり、施策で、何か増えるか、多少増えるかとは思いますが、やっぱり減っていくことを考えると、妥当という方向でいくしかないかなって思います。

○委員②⑩

皆さんが思われてるのと一緒ですけども、この先を考えると、もう1校に統合しかないという方向で考えていきたいと思います。

○会長

はい、一応皆様方の御意見をお聞きしましてですね。委員会の方向性としては、一応統合というところで話を整理できていたらなというふうに思っております。二小の複式学級が2つできた。今後、ほかの学校にもできてくる部分というところで、四つの小学校の公平性、平等性っていうか、その辺がとても気になっていました。これまで、どうにかして、同じ教育のエキスといいますかですね、そういう部分は必要な必要ではないかというところで今、続けてもらってますけども、専科指導小学校の専門の教科英語の先生と、理科と算数、それを巡回式で取り組めてます。それは、県内どこでもやってるものじゃありません。南関町独自の取組であって、ぜひそういう部分も、統合されたらですね。活かして、質の向上といいますか教育の向上というところで、更に、充実していけばな、そんな思いでおります。そういう部分をやっぱり提供していくのが町の教育委員会の役割であって、学校がなくなると、その学校の活用の仕方といいますか。地域との連携の仕方とか、そういう部分も新たな課題として、考えていく必要がある。そういうところで、とても重たい役割をやってるわけなんですけど、あと数回の検討委員会、それと先進地の訪問というところでですね、ぜひ皆様方の御理解を得ながらですね、進めていくことができればなと思います。お力添えのほうよろしくお願ひしたいと思います。

最後にもう1点。時間が来てますけど、望ましい教育環境検討についてっていう部分がございます。御意見を伺う中で、結構出していただいた部分もあるかと思いますが、ぜひこれだけはあるという思いがありましたら出していただけたらと思います。

○事務局

先ほどの御意見の中で、「もう町が場所を設定されているのではないか」という意見がありました。第2回部会の時に、一つ小学校に4校が全部入る。今、文科省の手引、この資料にも載っておりますけども、基本的な考え方の中に、現在、多く統合されているのが小中

一貫校であったり、義務教育学校、こういうものもありますよという御紹介をさせていただいております。その中で、通学の部分でスクールバス等の御意見がありました

○会長

補足説明というところでですね、これから考えていかなければならない課題等もあるようです。それと、国のほうもですね、新しい学校の形といいますか、義務教育学校、熊本県内もですね、阿蘇の産山。球磨地方の山江、高森町。そういうところが先進的に、義務教育学校、小中一貫校としてですね。取り組んでおります。国もそういうところでですね、教育の質を向上するような取組になっておりますので、検討する場合はそういうところも含めながら検討していきたい。そんな思いでございます。

そうしましたら時間が来てますけど、一応協議の部分はこれで、事務局のほうにお返しします。どうも御協力ありがとうございました。

○事務局

長時間にわたり貴重な御意見、ありがとうございました。頂いた意見をもとに今後の視察等もでございますので、いろんなケースも視野に入れながら、行っていければと思います。

閉会